

デリバレーション・ナイン (deliberation 9)



スタンフォード大の J. フィッシュキン教授が開発した Deliberative Polling (DP) というものがある。「討議型世論調査」などと訳される。結構大人数(300~400人)の参加者を集める必要があるのだからちゃんと実施するのは大変だ。机上の空論実験にすぎない、と評する人もあるらしい。日本での導入事例は少ない。これをパクったわけではないが、結果的にネーミングが似てしまった、私の提案⇒Deliberative Learning。たったの9人で出来てしまう、お手軽「熟議型グループ学習」の方法。9人であるから「デリバレーション・ナイン (D9)」と呼ぶ。



例えば、「地球温暖化防止のために私たちに何ができるか」を討論テーマとし、中学生がグループ学習する場面を想定する。

①先生：今日は、地球温暖化防止について、班に分かれて自由に話し合ってください。

生徒：・・・・・・

②先生：地球温暖化防止のために何ができるか、班で自由に話し合ってください。

生徒：★@ (^-^)*♂・・・・・・

③先生：Aさん～Iさん、まず自分の付与視点についてじっくり考えてください。(15分)

次に、(ADG)(BEH)(CFI)の3人組みになり、各自がどんなことを考えたか話し合いなさい(15分)。

次は、(ABC)(DEF)(GHI)の3人組みになり、各自が考えたことや、先ほどの討論で出されたアイデアなどについて話し合いなさい(15分)。

次は、(BFH)(BDI)(CEG)の人組みになり、どんな地球温暖化防止策に取り組むべきか話し合いなさい。(15分)。

	I 100年	II 1年	III 今すぐ
1 地球規模 で	Aさんの付与視点 今世紀中に実現したい地球温暖化防止の新技術ってなんだろう。	Bさんの付与視点 この1年、世界中で最も無駄に使われたエネルギーはなんだろう。	Cさんの付与視点 世界中の子どもが今すぐ始められる地球温暖化対策ってなんだ。
	Dさんの付与視点 100年後の地球のために、中学校では何を教えればよいだろう。	Eさんの付与視点 まず全生徒で一年間実践し、次に地域に広めていく活動はなに。	Fさんの付与視点 今すぐやれるのに、この学校ではやってないことってなに。
2 学校で	Gさんの付与視点 あなたが今して100年後に結果がでることってなんだろう。	Hさんの付与視点 1年前と今を比べて、あなたの環境意識はどう変わった。	Iさんの付与視点 自分の家で、今日からできる地球温暖化防止対策ってなんだ。

※付与視点は1人に1つずつ与える(付与視点AはAさんに、付与視点BはBさんに・・・)



③がD9で、この付与視点マトリクスは(改善の余地はあるが)、全国どこの学校でも使えるし、生徒が付与視点にどのように反応したかの知見を共有できれば、全国で汎用性のある授業や生徒の指導ができる。D9×2ユニット、D8、D4などの応用も可能である。